

# 歯科医師臨床研修プログラム

横浜市立大学附属 市民総合医療センター



## 附属市民総合医療センター 臨床研修の理念と基本方針

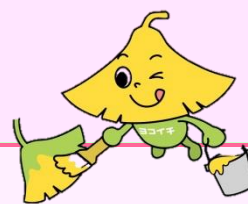
### <理念>

様々な医療事態に適切に対応できる応用力のある医師を育て、市民の健康を守ることに貢献します。

### <基本方針>

豊富な優れたスタッフのもとで、

- 1 common disease から複雑な病態まできちんと根拠を持って診療できる
- 2 身体・心理・倫理・社会的な側面を統合して患者様と向き合える
- 3 常に向上心を持ち、科学性と人権尊重を实践できる
- 4 多くの医療スタッフや地域医療機関と協働しつつ、自らを磨ける医師を育てます。



# 横浜市立大学附属市民総合医療センター 歯科・口腔外科・矯正歯科卒後臨床研修プログラム

## 【プログラムの特色と目標】

歯科医療全般に対する基本を習得すると共に、歯科口腔外科、矯正歯科の知識と技術を最大限にいかした、高度で専門的な治療をはじめとした頭蓋と顎顔面の先天異常に対する知識と技術の研修を行うことが可能である。

広く歯科学一般の知識、技能を修得すると同時に、医の倫理を深く認識し、一般社会に適応可能な医療従事者の基盤となる知識・技能・態度を身につけることを目標とする。

## 【プログラム責任者】

廣田 誠（歯科・口腔外科・矯正歯科部長、准教授）

## 【研修施設とその概要】

### ● 横浜市立大学附属市民総合医療センター歯科・口腔外科・矯正歯科

外来診療室 8室（ユニット8台）

許可病床数 5床（歯科・口腔外科・矯正歯科：5床、その他共用：5床）

歯科用診療台	8台	自動体外式除細動器（AED）	1台
ポータブルユニット	2台	経皮的酸素飽和測定器（パルスオキシメーター）	1台
デンタルエックス線装置	1台	酸素ボンベ及び酸素マスク	4セット
パノラマ断層撮影装置	1台	血圧計	4台
オートクレーブ	2台	救急蘇生セット	1セット
口腔内画像処理システム	2台	歯科用吸引装置（口腔外）	7台
生体モニター	1台		

### ● 横浜市立大学附属病院歯科・口腔外科・矯正歯科

外来診療室 6室（ユニット11台）

許可病床数 14床（ユニット2台）

歯科用診療台	13台	自動体外式除細動器（AED）	2台
ポータブルユニット	0台	経皮的酸素飽和測定器（パルスオキシメーター）	5台
デンタルエックス線装置	1台	酸素ボンベ及び酸素マスク	2セット
パノラマ断層撮影装置	1台	血圧計	5台
オートクレーブ	2台	救急蘇生セット	1セット
口腔内画像処理システム	1台	歯科用吸引装置（口腔外）	11台
生体モニター	4台		

## 【管理者・研修実施責任者】

### ● 横浜市立大学附属市民総合医療センター

榑原 秀也（病院長、研修管理委員長、管理者）

### ● 横浜市立大学附属病院

後藤 隆久（病院長、研修実施責任者）

**【指導歯科医リスト】** ※指導医養成講習会の受講者

● 横浜市立大学附属市民総合医療センター 歯科・口腔外科・矯正歯科

廣田 誠 (准教授、日本口腔外科専門医・指導医、指導歯科医)  
 高須 曜 (助教、日本口腔外科専門医、指導歯科医)  
 山下 陽介 (助教、日本口腔外科専門医、指導歯科医)

● 横浜市立大学附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科

光藤 健司 (教授、日本口腔外科学会専門医・指導医、指導歯科医)  
 小泉 敏之 (講師、日本口腔外科学会専門医、指導歯科医)  
 岩井 俊憲 (講師、日本口腔外科学会専門医・指導医、指導歯科医)

**【研修歯科医の指導体制】**

指導歯科医の指導監督の下、上級歯科医による屋根瓦方式を基本とする。

**【研修期間】**

管理型（横浜市立大学附属市民総合医療センター）： 9ヶ月

協力型（I）（横浜市立大学附属病院）： 3ヶ月

1年目ローテーション

市民総合医療センター 歯科・口腔外科・矯正歯科（9ヶ月）	附属病院 歯科・口腔外科・矯正歯科（3ヶ月）
---------------------------------	---------------------------

2年目ローテーション（参考）

市民総合医療センター 歯科・口腔外科・矯正歯科（40週）	市民総合医療センター 麻酔科（12週）
---------------------------------	------------------------

**【研修内容】**

● 横浜市立大学附属市民総合医療センター

曜日	時間	指導内容	指導担当
月	午前	外来診察、病棟実習	高須 曜、山下 陽介
	午後	外来手術	
火	午前	手術日（中央手術部での手術実習）	廣田 誠
	午後	全麻手術、症例検討会	
水	午前	外来診察、病棟実習	高須 曜、山下 陽介
	午後	外来手術	
木	午前	手術日（中央手術部での手術実習）	山下 陽介、廣田 誠
	午後	全麻手術、症例検討会	
金	午前	外来診察、病棟実習	廣田 誠
	午後	全麻手術	
土	当番制でオンコールまたは当直		
日	当番制でオンコールまたは当直		

※ 口腔外科手術日は火、木、金であるが、緊急手術も行う場合がある。

※ 毎週火、木曜日はカンファレンスにて症例を検討し、治療方針の決定、術式の決定を行う。

● 横浜市立大学附属病院

曜日	時間	指導内容	指導担当
月	午前	病棟カンファ 病棟：病棟処置、オーダー入力等 外来：初診患者の診察	小泉、岩井
	午後	病棟：病棟処置、オーダー入力等 外来：小手術	
火	午前	病棟カンファ 病棟：病棟処置、オーダー入力等 外来：初診患者の診察	光藤、小泉、岩井
	午後	病棟：病棟処置、オーダー入力等 外来：小手術 症例検討会、医局会	
水	午前	病棟カンファ 病棟：病棟処置、オーダー入力等、全麻手術（全身管理 術前術後管理） 外来：初診患者の診察	光藤、岩井
	午後	病棟：病棟処置、オーダー入力等、全麻手術（全身管理 術前術後管理） 外来：小手術	
木	午前	病棟カンファ 病棟：病棟処置、オーダー入力等 外来：初診患者の診察	光藤、小泉
	午後	病棟：病棟処置、オーダー入力等 外来：小手術	
金	午前	病棟カンファ 病棟：病棟処置、オーダー入力等、全麻手術（全身管理 術前術後管理） 外来：初診患者の診察	光藤、小泉、岩井
	午後	病棟：病棟処置、オーダー入力等、全麻手術（全身管理 術前術後管理） 外来：小手術 合同症例検討会（月1回）	
土	当番制で当直		
日	当番制で当直		

※ 口腔外科手術日は水、金であるが、緊急手術も行う場合がある。

※ 平日にも当番制で当直がある。

### 【プログラムの管理運営体制】

横浜市立大学附属2病院合同歯科臨床研修管理委員会による指導・管理を行う。

### 【研修の到達目標】

#### A 歯科医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）

##### 1. 社会的使命と公衆衛生への寄与

社会的使命を自覚し、説明責任を果たしつつ、社会の変遷に配慮した公正な医療の提供及び公衆衛生の向上に努める。

##### 2. 利他的な態度

患者の苦痛や不安の軽減と福利の向上を最優先するとともに QOL に配慮し、患者の価値観や自己決定権を尊重する。

### 3. 人間性の尊重

患者や家族の多様な価値観、感情、知識に配慮し、尊敬の念と思いやりの心を持って接する。

### 4. 自らを高める姿勢

自らの言動及び医療の内容を省察し、常に資質・能力の向上に努める。

## B 資質・能力

### 1. 医学・医療における倫理性

診療、研究、教育に関する倫理的な問題を認識し、適切に行動する。

- ① 人間の尊厳を守り、生命の不可侵性を尊重する。
- ② 患者のプライバシーに配慮し、守秘義務を果たす。
- ③ 倫理的ジレンマを認識し、相互尊重に基づき対応する。
- ④ 利益相反を認識し、管理方針に準拠して対応する。
- ⑤ 診療、研究、教育の透明性を確保し、不正行為の防止に努める。

### 2. 歯科医療の質と安全管理

患者にとって良質かつ安全な医療を提供し、医療従事者の安全性にも配慮する。

- ① 医療の質と患者安全の重要性を理解し、それらの評価・改善に努める。
- ② 日常業務の一環として、報告・連絡・相談を実践する。
- ③ 医療事故等の予防と事後の対応を行う。
- ④ 歯科診療の特性を踏まえた院内感染対策について理解し、実践する。
- ⑤ 医療従事者の健康管理（予防接種や針刺し事故への対応を含む。）を理解し、自らの健康管理に努める。

### 3. 医学知識と問題対応能力

最新の医学及び医療に関する知識を獲得し、自らが直面する診療上の問題について、科学的根拠に経験を加味して解決を図る。

- ① 頻度の高い疾患について、適切な臨床推論のプロセスを経て、鑑別診断と初期対応を行う。
- ② 患者情報を収集し、最新の医学的知見に基づいて、患者の意向や生活の質に配慮した臨床決断を行う。
- ③ 保健・医療・福祉の各側面に配慮した診療計画を立案し、実行する。
- ④ 高度な専門医療を要する場合には適切に連携する。

### 4. 診療技能と患者ケア

臨床技能を磨き、患者の苦痛や不安、考え・移行に配慮した診療を行う。

- ① 患者の健康状態に関する情報を、心理・社会的側面を含めて、効果的かつ安全に収集する。
- ② 診察・検査の結果を踏まえ、一口腔単位の診療計画を作成する。
- ③ 患者の状態やライフステージに合わせた、最適な治療を安全に実施する。
- ④ 診療内容とその根拠に関する医療記録や文書を、適切かつ遅滞なく作成する。

### 5. コミュニケーション能力

患者の心理・社会的背景を踏まえて、患者や家族と良好な関係性を築く。

- ① 適切な言葉遣い、礼儀正しい態度、身だしなみで患者や家族に接する。
- ② 患者や家族にとって必要な情報を整理し、分かりやすい言葉で説明して、患者の主体的な意思決定を支援する。
- ③ 患者や家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する。

### 6. チーム医療の実践

医療従事者をはじめ、患者や家族に関わる全ての人々の役割を理解し、連携を図る。

- ① 歯科医療の提供にあたり、歯科衛生士、歯科技工士の役割を理解し、連携を図る。
- ② 多職種が連携し、チーム医療を提供するにあたり、医療を提供する組織やチームの目的、チームの各構成員の役割を理解する。
- ③ 医療チームにおいて各構成員と情報を共有し、連携を図る。

### 7. 社会における歯科医療の実践

医療の持つ社会的側面の重要性を踏まえ、各種医療制度・システムを理解し、地域社会に貢献する。

- ① 健康保険を含む保健医療に関する法規・制度の目的と仕組みを理解する。
- ② 地域の健康問題やニーズ把握など、公衆衛生活動を理解する。

- ③ 予防医療・保健・健康増進に努める。
- ④ 地域包括ケアシステムを理解し、その推進に貢献する。
- ⑤ 災害や感染症パンデミックなどの非日常的な医療需要について理解する。

## 8. 科学的探究

医学及び医療における科学的アプローチを理解し、学術活動を通じて、医学及び医療の発展に寄与する。

- ① 医療上の疑問点に対応する能力を身に付ける。
- ② 科学的研究方法を理解し、活用する。
- ③ 臨床研究や治験の意義を理解する。

## 9. 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

医療の質の向上のために省察し、他の歯科医師・医療者と共に研鑽しながら、後進の育成にも携わり、生涯にわたって自律的に学び続ける。

- ① 急速に変化・発展する医学知識・技術の吸収に努める。
- ② 同僚、後輩、歯科医師以外の医療職と互いに教え、学びあう。
- ③ 国内外の政策や医学及び医療の最新動向（薬剤耐性菌等を含む。）を把握する。

## C 基本的診療業務

### 1. 基本的診療能力等

#### (1) 基本的診察・検査・診断・診療計画

- ① 患者の心理的・社会的背景を考慮した上で、適切に医療面接を実施する。
- ② 全身状態を考慮した上で、顎顔面及び口腔内の基本的な診察を実施し、診察所見を解釈する。
- ③ 診察所見に応じた適切な検査を選択、実施し、検査結果を解釈する。
- ④ 病歴聴取、診察所見及び検査結果に基づいて歯科疾患の診断を行う。
- ⑤ 診断結果に基づき、患者の状況・状態を総合的に考慮した上で、考え得る様々な一口腔単位の診療計画を検討し、立案する。
- ⑥ 必要な情報を整理した上で、わかりやすい言葉で十分な説明を行い、患者及び家族の意思決定を確認する。

#### ● 医療面接の実施

項目	目標症例数
医療面接・病歴聴取	100

#### ● 検査の選択と実施、解釈

項目	目標症例数
1 血液、尿検査	4
2 動脈血ガス分析	4
3 心電図	4
4 細菌学的検査	4
5 超音波検査	4
6 単純X線検査	4
7 造影X線検査	4
8 X線CT検査	4
9 MRI	4
10 核医学検査	1
11 細胞診、病理組織学検査	4

#### ● 本学で経験する代表的口腔外科疾患に対する診察と検査、診断

項目	目標症例数	
外傷 (顎骨骨折・広範囲に および顔面外傷)	診察(問診・視診・触診)	2
	検査(採血・X線検査・X線CT等)	
	診断	
	治療方針の立案	
	記録	

顎変形症、唇顎口蓋裂	診察（問診・視診・触診）	5
	資料採得・検査（スタディモデル・X線検査・顎関節MRI・採血）	
	診断（セファロ分析・模型分析）	
	記録	
顎関節症	診察（問診・視診・触診）	3
	検査（スタディモデル・X線検査・顎関節MRI）	
	診断	
	治療計画	
	治療・処置	
腫瘍・嚢胞	診察（問診・視診・触診）	2
	検査（スタディモデル・X線検査・顎関節MRI）	
	診断	

## (2) 基本的臨床技能等

- ① 歯科疾患を予防するための口腔衛生指導、基本的な手技を実践する。
- ② 一般的な歯科疾患に対応するために必要となる基本的な治療及び管理を実践する。
  - a. 歯の硬組織疾患
  - b. 歯髓疾患
  - c. 歯周病
  - d. 口腔外科疾患
  - e. 歯質と歯の欠損
  - f. 口腔機能の発達不全、口腔機能の低下
- ③ 基本的な応急処置を実践する。
- ④ 歯科診療を安全に行うために必要なバイタルサインを観察し、全身状態を評価する。
- ⑤ 診療に関する記録や文書（診療録、処方せん、歯科技工指示書等）を作成する。
- ⑥ 医療事故の予防に関する基本的な対策について理解し、実践する。

### ● 基本的な治療法

項目		目標症例数
1	歯冠修復、根管治療など保存学の基本	2
2	ブリッジ・義歯など補綴学の基本	2
3	低下した口腔筋機能改善のトレーニング	2

### ● 基本的な外科手技

項目		目標症例数
1	注射法（皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保）	5
2	採血法（静脈血、動脈血）	5
3	局所麻酔法（口腔内・口腔外・伝達麻酔）	5
4	簡単な切開・排膿・穿刺法	3
5	縫合法〔口腔外（顔面皮膚）・口腔内（粘膜・歯肉・口唇等）〕	3
6	軽度の外傷の処置（創傷処理・歯牙外傷）	3
7	手術法の手順・術式の把握	3
8	滅菌消毒法（手洗い・術野の消毒）	3
9	口腔内用副木（シーネの装着）	3
10	ガーゼ・包帯交換・ドレッシング・包帯法	3
11	ドレーン・チューブ類の管理	3

### ● 基本的な高頻度治療・外来小手術

項目		目標症例数
1	抜歯（萌出歯牙）の処置	30
2	普通抜歯の処置	10
3	埋没抜歯の処置	10
4	有病者における抜歯の処置	10

5	手術創部における出血・疼痛に対する処置	10
6	歯性感染症に対する処置	5
7	顎顔面外傷、歯の外傷に対する処置	5
8	生検における処置	5
9	根尖病変に対する外科治療の処置	5
10	口内炎の処置	5
11	齦蝕の処置	3
12	歯周疾患の治療	5
13	歯根端切除術	2
14	顎骨嚢胞摘出術・顎骨腫瘍摘出術（歯牙腫、骨隆起を含む）	2
15	舌小帯切除術	2
16	軟組織腫瘍切除術（良性腫瘍、線維腫等）	2
17	粘液嚢胞摘出術	2

● 基本的な応急処置

項目		目標症例数
1	疼痛に対する治療	10
2	顎顔面の外傷に対する治療	2
3	補綴装置等の脱離、破損、不適合に対する処置	2

● 診療に関する記録

項目	目標症例数
医療記録の作成・管理	120

(3) 患者管理

- ① 歯科治療上問題となる全身的な疾患、服用薬剤等について説明する。
- ② 患者の医療情報等について、必要に応じて主治の医師等と診療情報を共有する。
- ③ 全身状態に配慮が必要な患者に対し、歯科治療中にバイタルサインのモニタリングを行う。
- ④ 歯科診療時の主な併発症や偶発症への基本的な対応法を実践する。
- ⑤ 入院患者に対し、患者の状態に応じた基本的な術前・術後管理及び療養上の管理を実践する。

● 全身管理に必要な基本的治療法

項目		目標症例数
1	薬剤の処方	3
2	輸液	3
3	輸血・血液製剤の使用	3
4	抗生物質の使用	3
5	副腎皮質ステロイドの使用	3
6	抗腫瘍化学療法	3
7	経管栄養法	3
8	食事療法	3
9	療養指導（安静度、体位、食事、入浴、排泄等を含む）	3

(4) 患者の状態に応じた歯科医療の提供

- ① 妊娠期、乳幼児期、学齢期、成人期、高齢期の患者に対し、各ライフステージに応じた歯科疾患の基本的な予防管理、口腔機能管理について理解し、実践する。
- ② 各ライフステージ及び全身状態に応じた歯科医療を実践する。

● ライフステージに応じた口腔機能評価

項目		目標症例数
1	15歳未満の患者の咀嚼・嚥下・構音機能・食行動・体格の評価	2
2	高齢患者の咬合・咀嚼・嚥下機能、舌口唇機能、口腔乾燥の評価	2



## 2. 歯科医療に関連する連携と制度の理解等

### (1) 歯科専門職間の連携

- ① 歯科衛生士の役割を理解し、予防処置や口腔衛生管理等の際に連携を図る。
- ② 歯科技工士の役割を理解し、適切に歯科技工指示書を作成するとともに、必要に応じて連携を図る。
- ③ 多職種によるチーム医療について、その目的、各職種の役割を理解した上で、歯科専門職の役割を理解し、説明する。

### (2) 職種連携、地域医療

- ① 地域包括ケアシステムについて理解し、説明する。
- ② 地域包括ケアシステムにおける歯科医療の役割を説明する。
- ③ がん患者等の周術期等口腔機能管理において、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、多職種によるチーム医療に参加し、基本的な口腔機能管理を経験する。
- ④ 歯科専門職が関与する多職種チーム（例えば栄養サポートチーム、摂食嚥下リハビリテーションチーム、口腔ケアチーム等）について、その目的及び各専門職の役割を理解した上で、チーム医療に参加し、関係者と連携する。

#### ● チーム医療への関わり

項目	目標症例数
チーム医療	50

### (3) 地域保健

- ① 地域の保健・福祉の関係機関、関係職種を理解し、説明する。
- ② 保健所等における地域歯科保健活動を理解し、説明する。
- ③ 歯科健診を経験し、地域住民に対する健康教育を経験する。

### (4) 歯科医療提供に関連する制度の理解

- ① 医療法や歯科医師法をはじめとする医療に関する法規及び関連する制度の目的と仕組みを理解し、説明する。
- ② 医療保険制度を理解し、適切な保険診療を实践する。
- ③ 介護保険制度の目的と仕組みを理解し、説明する。

#### ● 保険診療の实践

項目	目標症例数
保険診療	120

■ 歯科医師臨床研修の到達目標を達成するために必要な症例数（合計）：388例

■ 研修期間中に経験することを目標とする症例数（目標症例数）（合計）：646例

※ 目標症例数の60%以上経験することを、目標達成の基準とする。  
ただし、全ての症例項目について、最低でも1症例以上の経験が必要である。

### 【研修評価の方法】

研修プログラムにおける到達目標にしたがって、3～4か月毎に経験症例における研修内容の自己評価を行う。また、指導歯科医による各研修歯科医の評価を併せて行う。

### 【臨床研修修了の認定】

臨床研修委員会において、研修歯科医の自己評価結果、指導歯科医評価結果をもとに最終判定し、当該プログラムの研修修了を認定する。研修委員会による修了認定を基に病院長より研修修了証書が発行される。

研修歯科医は指導歯科医が行う講義（年間に8回予定）を聴講し、レポートの提出を行う。また、修了認定として智歯抜歯あるいはそれに準じた小手術を行い、指導歯科医が評価、合否判定をする。習得できない事項がある場合には指導歯科医による講義およびレポートを提出する。

## 【臨床研修終了後のコース】

本プログラムの1年研修終了後、引き続き1年間、顎変形症、外傷、腫瘍、インプラントなどより専門的な研修を受けることができる。2年間の研修を終了後は、大学院への進学や専門医取得のための専門医養成プログラム（シニアレジデント）のコース（3～5年目対象；定員2～3人）が用意されている。

## 【令和5年度採用 募集概要（センター病院）】

### ● 募集定員 2名

### ● 応募の方法

- 応募資格：原則として令和5年3月に歯科医師免許取得見込みの者（既卒者も可）
- 試験内容：書類審査、オンラインでの面接試験
- 出願書類：卒業（見込）証明書、成績証明書、履歴書、小論文回答、CBT（歯科）試験結果
- 採用：歯科医師臨床研修マッチングに参加しますので、マッチング終了後に採用内定を通知します。  
第116回歯科医師国家試験に合格した歯科医師免許取得者を正式に採用します。

### ● 待遇等

身分	公立大学法人横浜市立大学 非常勤職員（臨床研修医）
研修手当	報酬月額：200,400円（令和3年度実績）
	期末手当：約600,000円（令和3年度実績） ※年2回に分けて支給
その他手当	宿日直手当：15,400円/回
	通勤手当：上限55,000円/月
勤務時間	原則として、8時30分～17時15分まで（休憩：勤務時間の中に1時間） 但し、研修歯科医が自主的に行う研修については、この限りではない。
休日	土曜日、日曜日、祝日、年末年始
休暇	年次休暇：16日/年、夏季休暇：5日/年、病欠休暇：20日/年
時間外勤務	原則なし
当直	あり（月4回程度）
宿舍	なし（住宅補助あり、上限3万円/月） ※賃貸の場合に限る
研修医室	あり
社会保険・労働保険	公的医療保険：全国健康保険協会
	公的年金保険：厚生年金
	労働者災害補償保険：適用あり
	雇用保険：適用あり
	その他：横浜市厚生会に加入可
健康管理	健康診断を年1回実施、各種ワクチン接種あり（肝炎ワクチン、風疹ワクチンなど） 針刺し事故対策マニュアル完備
歯科医師賠償責任保険	個人において自費・任意加入（※加入を強く推奨）
外部の研修活動	学会・研究会等への参加可、参加費用は支給なし
アルバイト（外勤等）	禁止（歯科医師法第16条の2、第16条の3の規定による）